

2020年度 道央ブロックアカデミー①事業報告

開催日：2020年8月10日（月・祝）

会場：滝川市河川敷天然芝サッカー場

大会：北空知U-18サッカーフェスティバル 60分ゲーム

参加INS：矢野宏和 靱山智哉

参加者：土屋花（滝川高校1年女子）二谷夢翔（滝川西高校1年）土橋大和（滝川西高校2年）

浅田希未（岩見沢緑陵高校2年・前年度経験者）清水琉惺（岩見沢緑陵高校1年）

研修内容：主審・副審審判実技、振返り

新型コロナウイルス感染症対策をした上で今年度1回目の道央アカデミーの開催となりました。今回参加者は5名、そのうち3名は8月下旬に4級を取得予定で無資格ではありましたが、北空知フェスのご協力もあり開催への運びとなりました。

参加者全員主審を担当し、女子1名と初参加の男子1名以外はシャドートレーニング形式ではなく、1人でピッチに立ち、堂々のジャッジ、無資格とは思えないほどのクオリティで我々インストラクターも驚くほどでした。

できるだけユース審判員のみで審判チームを構成し、INSからの指導だけではなく、お互いに意見を出し合う場もつくり、1～4試合目まで前後半またはハーフでそれぞれが主審を経験することができました。



【参加者感想】

岩見沢緑陵高校1年 清水 琉惺

この研修を通して、ARの旗の持ち方、サイドステップの使い方等を学ぶことができました。また主審では少し動きすぎて慣れなかったが、後半は落ち着いてできたと思う。3つのファウルを判定することができたので良かった。この経験を活かし色々な試合で審判をできるようにしたい。



滝川西高校1年 二谷 夢翔

主審では争点に近づく為のポジショニングを教わることができました。シグナルするときの自信がついたと思います。ARを確認するタイミングや、重要な事をたくさん教えてもらいました、ありがとうございました。



滝川西高校2年 土橋 大和

今回の主審でご指導いただき、自分がレフェリーサイドを意識していない事に気がきました。直線的に走るのではなく、対角線を意識しながら膨らんで走る事、シグナルは止まってしっかりとシグナルする等、今まで知らなかった事にたくさん気付く良い機会になりました。

滝川高校1年 土屋 花（女子）

今回のアカデミーの参加を通じて様々な経験を得ることができました。今までアシスタントレフェリーは何度もやりましたが、今回のようにしっかりアドバイスを頂き、ポイントを見てくださるのは初めてだったので、とても勉強になりました。



また、自身初の主審、正直に言うとは直前まで緊張を越えて死にそうだったけど、ピッチに入ってみると不思議にやる気が出てきました。最初の15分は靄山 INS がとても丁寧に教えてくれました。急な展開やシュートシーンは中々ついていく事が難しいが、そこも勉強になりました。残り15分は自分でやってみて、だんだん楽しくなってきた、また主審をやりたいと思いました。今回の経験は自分にとってすごく貴重なもので、これを機に上の級を目指してみたいとなりました。

岩見沢緑陵高校2年 浅田希未

昨年はINSの人と一緒にピッチに入って主審をしたけど、今回は一人で主審をして、最初は心配でしたが、段々慣れてきて笛を吹けるようになりました、昨年よりも上手に吹くことができたと思います。改めて主審の難しさを感じました。

【研修を振り返って】

インストラクター 矢野 宏和

コロナ禍の中、開催が危ぶまれている今年度でしたが、サッカーが再開されて早々にこのような機会を設けることができたのは、各学校のご理解とフェスティバルに関わる先生方のご協力があったからこそだと感謝しております。

今回は無資格2名女子1名と不安な面もありましたが、その不安を一瞬で無くすほど、参加審判員のクオリティに驚かされる開催となりました。

第一試合からユース審判員のみで審判団となり試合に臨むその姿に感銘を受けるほどでした。

今回は講義が無く、実技のみでしたが、参加審判員の意識は高く、最終的には上級を目指してみたいという感想も貰えたほどでした、今後も参加者には道央ブロックリーグ等で顔を合わせることもあるので引き続き指導し、携わって有能な審判員の育成に努めて参りたいと思います。

「審判が楽しい!」、「審判をやりたい!」。とても嬉しい言葉でした。



インストラクター 靄山 智哉

道央ブロックから5名ものユース審判員が参加していただきましたこと、また、各校サッカー部顧問の皆様および保護者の皆様、滝川フェスティバル関係者の皆様に変感謝申し上げます。

新型コロナウイルス感染症の影響で、大会はもちろん、日々の練習がままならないまま始まった今シーズン。選手はもちろん、審判員にとっても大きな変化がありました。その中でこうして、審判トレセン道央ブロックアカデミーの開催ができたことを大変嬉しく思います。

今回参加してくれた5名の審判員は有資格者、直近に資格取得予定している者、そして、今までの経験値も様々な5名でした。レフェリー、アシスタントレフェリーの経験をする中で、着実に進歩する姿が見え、大変よい経験となったのではないのでしょうか。また、他のユース審判員のレフェリングを見る機会は多くないので、同じ年代、同じ境遇の審判員から得るものは大きかったのではないのでしょうか。その中でほんのわずかな時間ではありますが、審判員5名とインストラクターという立場で活動させていただけたことを嬉しく思います。

今後、様々な経験を積んで、上級の審判員を目指してくれることを期待いたします。